

1 はじめに

上益城郡は、河田知治会長（清和中学校）を中心に、8校17名の研究員で構成され、教科等研究会を活動の中心として研究を進めた。本年度は、生徒が主体的に活動し、グループや周囲などからアドバイスや助言をもらいながら保健体育の授業に取り組めるよう、PDCAサイクルを活用した授業の工夫改善を図りたいと考えテーマを設定した。生徒が主体的に活動するためにはどのような授業の工夫が必要なのか、対話的に取り組むとはどのような場面を想定しているのかなど、2回の提案授業を中心に研究を進めた。昨年度は、熊本地震の影響で、当初予定していた計画通りに研究を深めることができなかったこともあり、本年度は昨年の分まで力を入れて研究を行った。組織作りのグループ分けをし、夏休みに体づくり運動の実技研修、2学期から3学期にかけて研究授業を2本行い「①生徒が主体的に取り組む授業」「②生徒が対話的に取り組む授業」の2つを柱として研究テーマの達成にせまった。

2 研究テーマ

**一人一人が主体的・対話的に取り組む保健体育学習の創造
～PDCAサイクルを基にした授業の工夫改善～**

3 研究組織

- 部長 河田 知治（清和）
- 理事長 板床 龍哉（蘇陽）
- 部会及び研究員

部会	夏期実技研修部会	授業研究部会	意識調査部会
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実技講習会の提案 ・講師、内容の確認 ・日程、役割の確認 ・実践レポート研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の研究授業の提案 ・事前研究会の充実 ・教材教具の提案 ・評価の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践レポートの提案 ・生徒の意識調査の実施 ・新体力テスト分析 ・次年度へつなぐ取組
チーフ	岩田 聡（木山）	板床 龍哉（蘇陽）	倉岡 武（御船）
研究員	黒川克己（木山） 藤野博文（嘉島） 中尾祐毅（嘉島） 顧問：服部起明（嘉島）	内田晴龍（益城） 有働秀樹（益城） 田上大太郎（益城） 武田雅裕（清和） 藤原一也（矢部） 顧問：岩田雅子（清和）	村上伸一郎（御船） 松本 巧（甲佐） 顧問：福永純一（御船）

4 活動状況

(1) 【5月25日（木） 郡教科等研究会 半日研修（御船中学校）】

- ①役員選出
- ②研究テーマ、サブテーマの検討
- ③年間計画作成

(2) 【7月26日（水） 熊本県中体研夏期研修会・体育実技講習会】

- (3) 【8月1日(火) 夏期実技研修会 半日研修(木山中)】
「体づくり運動」 講師：岩田 聡 教諭(木山中学校)・中尾 祐毅 講師(嘉島中学校)

- (4) 【10月26日(木) 研究授業I 半日研修(清和中)】
保健分野「欲求不満やストレスへの対処」
授業者：武田 雅裕 教諭(清和中学校)

ペア学習やグループ学習の時間を多く設定し、生徒同士で課題解決に向けた学習を進めることができるよう工夫した。課題解決していく中で、何について教え合ったり、話し合ったりしていくかの視点を明確にした上で行うことができた。

まとめの段階では、学習カードをもとに生徒に学習内容を振り返らせる場面を設定し、1時間の授業の中で学んだことを伝え合うよう工夫し、学習内容を更に深めるとともにテーマにも迫ることができた。



【1年生保健 対話的学習】

- (5) 【1月26日(金) 研究授業II・まとめ 半日研修(益城中)】

球技「バスケットボール」 授業者：有働 秀樹 教諭(益城中学校)

生徒が主体的に授業に取り組めるよう、見通しを持たせる単元計画表やメニューボードを作成し、学習の流れを明確にした。1時間の流れが分かることで学習内容を意識し、主体的な活動ができるようになった。



【作戦ボードを活用した対話的活動】



【ICTを活用し説明を可視化】

5 まとめ(成果と課題)

① 生徒が主体的に取り組む授業について

- 目標を明確にしたり、見通しを持たせたりすることは主体的に取り組むための意欲向上につながった。
- ICTを活用し、めあてや1時間の流れ、活動の説明等を可視化することで、より理解しやすくなり主体的な活動につながった。
- 発問の工夫をすることで、生徒の課題解決の手助けとなる。仲間と関わり合いながら課題解決していくことは、特に運動が苦手な生徒の意欲の向上に役立った。
- 「分かる・できる」喜びを実感させるために、生徒の実態に応じて指導内容や方法を精選していく必要がある。
- アンケート調査などを実施し、意識の変容を捉え、効果的な指導につなげていく。

② 生徒が対話的に取り組む授業について

- 視点を明確にすることにより、ペア学習やグループ学習が活性化され、生徒の学びを深め、より意欲的に学習に取り組むようになる。
- 作戦ボードなどの思考ツールを効果的に活用することで、生徒同士の教え合いや話し合いが活発になった。
- 対話的活動と運動量の確保とのバランスを考えないと、体力向上につながらない。
- 振り返りの内容を次時に生かしていく手立ての工夫が必要である。